idea

ニュースレター「イデア」

2021. 5

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

1｜二言三言｜　産婦人科野田　野田隆弘さん（後編）
3｜団体紹介｜　金沢とうちゃんの会
5｜地域紹介｜　折壁町自治会（室根）
7｜企業紹介｜　有限会社　玉澤建設(木楽々工房)（藤沢）
8｜博識杜のフクロウ博士｜　地域運営の落とし穴⑩
9｜センターの自由研究｜　地名の謎ファイルNo.3「狐禅寺」

今月の表紙

狛犬ではありません、「稲荷神」のお使いの「きつね」です。野山にいるいわゆる「キツネ」ではなく、‘びゃっこさん’とも呼ばれる白い(透明)きつねであり、我々の目には見えない存在です。「稲荷」という名前は「稲が生る」ことからついたという説もあり、五穀豊穣の神様として信仰されてきました。そんな「稲荷神」が今月の自由研究のキーワードの1つです。

idea

発行　いちのせき市民活動センター　〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415
せんまやサテライト　〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736
ホームページ:https://www/center-i.org/ メール:center-i@tempo.ocn.ne.jp

おしらせ

募集

「金管バンドクラブ」メンバー募集中

千厩町の「金管バンドクラブ」は、千厩町内の各種イベントのほか、アンサンブルコンテストにも参加しています。コンテストは小学生が対象ですが、その他の演奏の機会には保護者の参加も大歓迎！今年度は3年生、5年生の3名で活動中です。練習の見学も可能(要事前連絡)、下記連絡先までお気軽にお問合せください。

練習日・時間：　※変更になる場合あり
＜水曜日＞　18時30分～20時
＜土曜日＞　13時30分～16時
主な練習場所：奥玉市民センター、千厩農村勤労福祉センター
問合：✉rmu.d.s2@gmail.com
（会長：武者）

情報

「狐禅寺smile2020」絶賛公開中！

狐禅寺地区の「KMY(狐禅寺・みんなして・やっぺし)プロジェクト実行委員会」内「狐禅寺『未来図会議』」では2020年に制作した地域PR動画をYouTubeで公開しています。

第2弾となる今回は、狐禅寺住民の「意外な一面」をクローズアップ。さまざまな特技や趣味を持つ地域住民の「ウラの顔」をご覧いただけます。

※「令和2年度いちのせき元気な地域づくり事業」で制作しています。

右のQRコードから
視聴可能(YouTube)→

問合：0191-21-2155
（狐禅寺市民センター）

募集

「いちのせき市民フェスタ21」参加団体募集

一関市内で活動を行う市民活動団体を中心に、個人・企業等が一堂に会し、活動紹介をはじめ、各種体験等により交流を図りながら、市民のまちづくりへの参画を促進する「いちのせき市民フェスタ」。このイベントに参加する団体を募集します。コロナ禍での開催のため、今年度は参加団体を30組に限定しますが、新たな試みも検討中！詳しくはQRコードを読み込むか下記までお問合せください。

問合：0191-26-6400
（いちのせき
市民活動センター）

情報

特定非営利活動促進法(NPO法)の改正について 令和3年6月施行

令和2年12月2日に「特定非営利活動促進法の一部を改正する法律(令和二年法律第七十二号)」が成立し、12月9日に公布されました。本改正法は、令和3年6月9日施行となります。一関市で認証されているNPO法人および認証を予定している認証申請予定者に関連がある部分について概要をお知らせします。詳しくは内閣府の「NPO法人ポータルサイト(下記QRコードからもご覧いただけます)」または下記までお問合せください。

＜改正施行日＞　令和3年6月9日
＜改正のポイント＞

1. 縦覧期間の短縮(設立の迅速化)

設立認証申請等の必要書類の縦覧期間が「1か月間」から「2週間」に短縮されます。併せて、書類に不備がある場合の補正期間が「2週間」から「1週間」に短縮されます。また、縦覧事項は所轄庁による認証・不認証の決定までの間、インターネットの利用等により公表されます。

2. 住所等を公表等の対象から除外(個人情報保護の強化)

以下の書類について、個人の住所・居所に係る部分が公表の対象から除外されます。
①設立認証の申請があった場合に所轄庁が公表・縦覧させる「役員名簿」
②請求があった場合にNPO法人(認定・特例認定)が閲覧させる「役員名簿」・「社員名簿」
③請求があった場合に所轄庁が閲覧・謄写させる「役員名簿」・「社員名簿」

問合：0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

まちの写真展

スタッフがまちの１コマを切り取ります。

作品名　「藤と、滝と、金山と」

東山町田河津の矢ノ森地区にある「矢ノ森八景」の一つに数えられる「藤壺の滝」。その横には「矢ノ森金山坑」の入り口が！同金山は藤原氏全盛期に採掘が始まったとされます。約300mの坑道には入ることもできます。藤の見頃時期の散策がおすすめです。

旧町村別の人口動態等を共有します。

2021年４月１日付
(2021年３月31日現在
住民基本台帳より)
※外国人登録者含む

一関市全体	前月比
人口	112639	-578
世帯数	46290	+24
出生数	48	+21

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	55455	-274	24318	+16
花泉	12490	-48	4716	+2
川崎	3436	-21	1294	+2
千厩	10299	-57	4118	+10
大東	12602	-64	4955	-3
東山	6242	-45	2300	-5
室根	4636	-23	1781	+1
藤沢	7479	-46	2808	+1

153／112,639

野田隆弘

弘前大学医学部を卒業し、産婦人科医としての経験を積みながら、平成16年には東北大学にて博士号取得。東北大学病院のほか、宮城県のスズキ記念病院、仙台ARTクリニックなど、生殖医療専門病院での経験も豊富。平成30年、本格的にUターンし、産婦人科野田での治療一本に（以前から週に１～２回の出張診療を行っていた）。昭和43年一関市生まれ。

第83回　産婦人科野田　医師(医学博士)　野田隆弘さん　×　いちのせき市民活動センター　センター長　小野寺浩樹

「不妊治療」の「選択肢」を広げて
～正しい理解とサポート環境の構築～　【後編】

晩産化の具体的な中身や、治療へのハードルについてなど、「正しい理解」が追いついていない現状があります。当事者のみならず、周囲の理解も重要となる「不妊治療」について、特にもクラシカルな一般不妊治療に力を入れる「産婦人科野田」の野田医師にお話しを伺った2回シリーズの後編です。

小野寺　不妊治療をしているという人から「治療日が急に決まるので仕事の調整が大変」という話を聞きますが、これはどういう状況なのでしょうか。

野田　例えば体外受精の場合、本来は月に1つずつ排卵される卵子を、薬などを使って10個くらい育て、その卵子を取り出し、培養液の中で受精させ、培養した受精卵を子宮腔内へ移植するという流れになるんですが、卵子を取り出す36時間前に注射で薬を打つ必要があります。卵子の発育状況を見てそのタイミングを決めるのですが、３日～４日単位でどうしても変動があるので、急に「３日後に来て」という風に言われたりします。

小野寺　勤務の人だと職場の理解を得るのが大変ですよね。

野田　そう、実は意外と重要なのが仕事の状況。自営なのか勤務なのか、夜勤があるか、出張があるか……そういう状況を聞いて、プランを立ててあげて。妊娠の原則は、排卵日の前２日間を含めた計６日間の中で精子が入ってくれれば受精するというシンプルなものです。自然妊娠も、体外受精も、人工授精も、全てそこに合わせるわけです。ただ、排卵日は自分でも厳密には分からないので、そこの情報を提供したり。

小野寺　確かに、その仕組みは動かない事実で、知っているつもりですが、改めて教えてもらえると安心感が違います。そうした情報提供やプラン提供だけの診察という人も多いですか？

野田　かなりいますよ。体外受精１人の後ろに、タイミング法や人工授精をしている人が10人くらいいる感覚です。妊娠の確率は40代までは基本的に右肩上がりなんです。１年間頑張り続ければ、確率は上がり続けるはずなんです。ただそのためには強いメンタルが必要なので、右肩上がりの曲線に乗れるようにサポートすることが大切です。

小野寺　どちらかと言うと精神面での安心感を与えるような診療ですね。

野田　20代の１回あたりの自然妊娠率は25～30％。例えば１００組のカップルがいたとして、毎月タイミングを合わせていくと、１年間で95組が妊娠するという理屈です。でも実際には妊娠できない月が続くと凹むわけです。そこに歳を重ねると確率が減りますし、途中で嫌なことがあったりするとゼロになってしまったり……。

小野寺　子どもは授かりものと言いますが、この確率を見ていると本当にそうですね。授かる権利はあるけど、何かしらの要因があって授かれない。その確率を少しでも上げるためにクリニックがあって。「妊娠しない＝子どもをつくらない」と思われがちだけど、そうではない。近年は「プレ・マタハラ」[※1]とも言われますが、妊娠を望む人とのコミュニケーションのあり方というか、「言える環境」づくりは大事ですよね。

野田　妊娠の仕組みや不妊治療の中身は、シンプルなんだけど、伝えにくいし伝わりにくい。本当は「不妊治療」という言葉から一歩進んで「タイミング法をやっている」「人工授精をしている」「年に何回か体外受精をしに仙台に通ってる」という具体的な話も普段の会話でできるようになれば、周囲もサポートしやすくなるんですが。社会全体のリテラシー[※2]の問題です。

小野寺　確かに、職場の中で眼科に通院するのと同じ感覚で「行ってらっしゃい」と言ってあげたいですよね。生理休暇のように、不妊治療休暇のような規定も必要なのかもしれません。

野田　不妊治療に対する補助は、岩手県、一関市ともに手厚い方です。一関市は一般不妊治療（タイミング指導、人工授精、超音波検査等）の助成を、岩手県は特定不妊治療（体外受精、顕微授精）の助成をしていますが、宮城県は一般不妊治療の補助がない地域が多いです。環境としては優位ではあるかと。

小野寺　そうすると、世間の不妊治療へのイメージが改善されるともう少し取り組みやすくなりますよね。「仕事の調整が大変だ」とか「一関ではできない」と思っている人も多い気がしますし。ここのように土日も診療していると、夫婦での来院もしやすいと思いますが、旦那さんなど、男性の不妊治療への意識はどうでしょうか？

野田　治療に来る旦那さんのスタンスは様々ですよ。夫婦で来る人もいれば、産婦人科そのものに抵抗があって車の中で待っている人や、最初から女性だけで来る人も多いです。奥さんよりも前のめりでメモをとるような男性もいれば、「全部指示に従います」というタイプの人も。プレッシャーをかけてご夫婦の仲が悪くなることや、奥さんが医者と旦那さんの板挟みになるのは何としても避けたいので、旦那さんがどんなスタンスであっても認めてあげることが大事ですね。

小野寺　どうしても不妊治療というと女性に原因があると思われがちですが、男性に原因があることもあるわけですし、女性だけが責任を感じるような状況は作りたくないですよね。実際、不妊治療の結果、子どもを授かれないまま治療を終える人も？

野田　たくさんいますよ。子どものいない人生を選ぶというか。40歳を過ぎると、体外受精をしても卵子がとれなくなったり、受精しなくなるんです。そこで決心したり、最初から「42歳までにしよう」と期間を決めている人もいれば「辛くなってきたからやめる」という人も。

小野寺　そういう現状も含め、社会的な認知度を高めていかなければいけないですね。年代によっては理解が進まない分野なので、家庭内でも、地域内でも、もっと気軽に不妊治療の話題が出せる社会になるように……。

野田　間違ったことを言っても良いから、社会全体のリテラシーが上がっていけば良いのかなと。不妊治療の業界として１００％のものが提供できていない現状があるので、足りない所を埋め合うような仕組みが必要なんだと思います。

医療法人平成会　産婦人科野田
電話　0191-23-0608
※定休日　火・木曜日

※１　「プレ・マタニティハラスメント」の略で、妊娠前の「妊活」時に受けるハラスメントを意味する。
※２　原義では読み書きの能力だが、ある分野に関する正しい知識や理解能力のことを指して使われる。

横と縦、地域を越えた「仲間」として

金沢とうちゃんの会
平成17年７月発足。花泉町の一関市立金沢小学校で行われている「市谷交流」の実行委員会OBや金沢小学校現役PTAなど約30人で構成。市谷交流事業のサポートのほか、各種交流活動を行っている。

※同会への連絡は金沢市民センターを経由
TEL：0191-82-2954

写真：「市谷おやじの会」とのスポーツ交流大会での記念写真

金沢とうちゃんの会

辛い思い出にさせないために

平成29年に30周年を迎えた「市谷交流」。花泉町の一関市立金沢小学校と東京都の新宿区立市谷小学校との交流事業で、毎年７月下旬に市谷小学校児童が金沢に、３月下旬には金沢小学校児童が市谷を訪れ、ホームステイを含む交流を行っています。

事業の主体は当該学年のPTAで組織する実行委員会ですが、その裏で陰ながら事業を支えているのが「金沢とうちゃんの会」です。

「実行委員会は準備することが多すぎて、辛い部分も大きい。そのためか『市谷交流は大変だよ』と後輩PTAに伝える人も多い。せっかくの良い事業なので、現役PTAの負担を少しでも減らし、良い思い出にしてもらいたくて。次の後輩たちのために立ち上げました」そう語るのは発足時からのメンバーである千葉信秋さんです。

実は千葉さん、同事業に携わる前は市谷交流自体に反対の立場でした。それが、実際に７月の受入れを経験して印象が変わり、さらに翌年３月に引率で同行した市谷で受けた歓迎に感動！「帰りの新幹線の中で『来年は実行委員長をやる』と宣言した」のだとか。

無事に実行委員長として翌年の事業を終え、その反省会の中で同会の発足について思いを共有。平成17年７月、同会が発足しました。

自分たちも楽しむ！続くつながり

同会の発足のきっかけにはもう一つ、「市谷おやじの会」の存在があります。昭和63年に「市谷交流」が始まりますが、当時から金沢地区ではPTA活動には母親よりも父親が主体で参加していました。しかし、関東では母親の参加が主で、父親が関わることはほとんどなかったのだとか。

引率として参加していた市谷の父親たちが、主体となって事業を進めている金沢の父親たちに感化され、「自分たちも父親という立場から何か協力できることはないか」と平成10年頃に「市谷おやじの会」を結成。現役PTAだけでなく、OBになってからも交流を支えるようになります。その姿を見ていたこともあり、「金沢とうちゃんの会」の発足が自然と受入れられたのでした。

双方に父親を主体とする会ができたことで、平成18年からは親世代の交流が始まります。10月に市谷おやじの会が改めて金沢を訪問し「スポーツ交流会」を行うことに！「大人の遠足のような感じだよね。20人くらいでバスをチャーターして。昼間は野球やバスケ、夜は飲み会。仕事の絡みも何もない人たちとの飲み会だから趣味の話とか当時の思い出とか、お互いに純粋に楽しくてね」と、コロナ禍で昨年は開催できなかったこともあり、交流の様子を楽しそうに振り返ります。

また、同会会員間の交流として、近年は花見や飲み会、ゴルフコンペを開催。同地区内で暮らしていても「PTAを卒業した瞬間に交流がピタッと切れる」そうで、同会を通した交流が貴重な機会となっています。

さらに数年前から「とうちゃんの会ジュニア」という括りを同会内に設置。完全なOB世代と、まだ現役PTAの世代とを分けることで、現役世代が活動に参加しやすくなるという狙いです。

「引退のない会だから、OBといっても年齢層が大きく開いてきてしまった。発足当時の会員に遠慮して参加しないようじゃ意味がないので、ジュニアは現役ジュニアの中で交流して欲しい」と千葉さんは期待を込めます。

「現役世代が主体」というスタンスは崩さずに

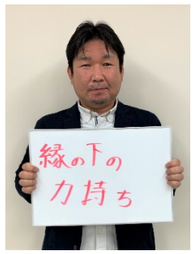
同会の仕事として、市谷交流に係る事業費を賄うための「草刈り作業」があります。同会発足と同時に、当時の金沢財産区内の整備作業（枝打ち、草刈り等）を担わせてもらえるように交渉。以後、現役PTA世代と一緒に、夏場に２回の作業を行い、事業費を賄っています（４年前から宝持院墓地の草刈り作業も受託）。

そんな地域ぐるみでの一大事業である市谷交流ですが、現在大きな岐路に立っています。同会会長で現PTA会長でもある森谷桂樹さんは「昨年度はコロナ禍で中止、今年度も見通しが立たない。そうすると全く市谷交流を経験できない学年ができてしまう。学校統合も迫っており、今後の事業継続について検討を進めなければいけない」と大きな課題に直面しています。

同会としては「現役世代が続けたい」と言えばその方法を一緒に模索する」という立場。統合後は「花泉地域全体での取り組みとなるのが理想」としながらも、現役世代の決断を静かに見守っています。

Q.「金沢とうちゃんの会」を一言で表すと？

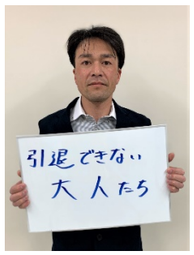
会長



A. 縁の下の力持ち

もりや　けいじゅ
森谷桂樹さん
１期２年目。東京都出身という縁で、同会には長女が未就学児の頃から参加。現役PTAでありながら、市谷交流を何度も経験する大ベテラン。

会員



A. 引退できない大人たち

ささき　けいた
佐々木圭太さん
現役PTAであり、令和元年度の実行委員長だった佐々木さん自身も、小学生の時に市谷交流に参加！親子２代で同事業を経験しています。

- Photo gallery -

財源確保のために

市谷交流のための財源は地域内の環境整備で賄っています。現役PTAとともに同会会員も汗を流して支えます！

黄色い法被が目印

市谷交流の際は黒子的な存在と言いながらも、「金沢とうちゃんの会」と入った法被着用で少しは存在もアピール（笑）

感動のおもてなし

毎年恒例のキャンプファイヤーと花火。近年は市谷おやじの会と同会が対抗形式で花火を行い、大盛り上がりなのだとか。

お手製の竹の器で

市谷小学校からの引率保護者の多くが感動するのが、竹を削って手作りしたジョッキ。同会のおもてなしの一つです。

「暮らし」の安心・安全を創り出すために

折壁町自治会

旧国道284号線（気仙沼街道）室根商店街沿いの自治会。西は竜雲寺の入口、東は佐福会館手前までと道路沿いの距離としては1.2km程とコンパクトですが、185戸約470人と室根町最大の人口を抱えます。

左の写真：「室根町家庭ソフトバレーボール大会」で優勝した際の記念写真（令和元年）

室根

折壁町自治会

2つの町内会が力を合わせて

自治会内をJR大船渡線、気仙沼街道、大川が横断し、室根山から流れる榎木川は地区の中央を縦断するなど、町場でありながら河川との共生を図らなければならない同自治会は、榎木川を境に一丁目（旧本町）、二丁目（旧新町）と2つに分かれます。旧室根村時代に行政区を再編する際、2つに分かれるべきではないかという議論もありましたが、自治会長の小山光正さんは「少子高齢化を迎えた今となっては分かれないで正解だった」と振り返ります。

自治会自体は今年で発足40年目ですが、集落としての歴史は古く、10代以上続く家も多いのだとか。

旧知の間柄である家が多いことは安心である反面、それが裏目に出てしまったのが東日本大震災の復興支援期。家や車両の鍵をかける習慣のない家が多く、大工道具等の盗難被害が多発したのです。

被害の深刻さから駐在所と連携し、始まったのが「鍵かけ運動」の展開。二丁目から開始し、徐々に対象範囲を広げ、最終的には自治会全世帯での取り組みに広げました。同自治会が「モデル地区」となって始まった「鍵かけ運動」は各地に広がり、モデル地区ではなくなった今も自治会独自の取り組みとして運動を継続しています。

さらに、令和2年3月には「地域防災マップ」を作成。前年10月の台風で大規模な冠水被害が発生したことを受けての取り組みで、その時の冠水区域を地図上に明記したほか、一時集合場所や防災施設・器具の設置場所はもちろん、地区内に居住する看護師宅が明記されているのがポイントです。

このマップは同自治会総務部副部長の小野寺正幸さんが中心となって作成。小野寺さんは「北上川など上流からの距離がある川の増水と異なり、上流が室根山のため、冠水するまでが早い。日頃からの意識が重要になる」と、作成した防災マップの周知に意欲を見せます。

地域住民の暮らしを分析し、対応する

小野寺さんは年6回発行の自治会報の作成も担当していますが、裏面には毎回「防火防災啓発記事」を掲載。豪雨災害発生時の対応をはじめ、草刈り機械やガソリン取り扱い時の注意など、発行時期に起こり得る災害や事故を具体的に想定し、注意喚起しています。

また、気仙沼市に通勤する人や、室根山の登山客なども多く通行する同地区内では、ゴミ集積所に取り残されるゴミが後を絶ちません。そこで生活環境部では年に5回程度、約10か所あるゴミ集積所の点検清掃活動を行い、残されたゴミへの対応を行っています。

「気仙沼市の指定ゴミ袋に入ったゴミも多い。気仙沼で買い物をする住民も多いので、高齢者が間違えて購入している可能性もある。いつまでも集積所に残すわけにはいかないから、当市指定袋に入れ直して出すしかない」と、県境地域ならではの課題を抱えますが、「ルールさえ守れば、隣の自治会の人でも当自治会のゴミ集積所を使って良いということにしている。高齢者など、自分のゴミ集積所よりこちらの方が近い人もいるからね」と、近隣自治会との協力体制も築いています。

「どうせやるなら」楽しく、上に、前に！

そんな同自治会の自慢と言えば、体育部が声がけをして参加している「室根町家庭ソフトバレーボール大会」で総合優勝8連覇中という偉業！男子の部は11連覇中という驚異の強さです。30～40代は通年練習し、65歳以上の実年の部も出場者を集め続けています。

この体育部の事業で注目すべきは近年恒例行事となりつつあるという「楽天観戦ツアー」。宮城県まで「東北楽天ゴールデンイーグルス」の試合観戦に向かいます。「総合優勝の『ご褒美』として始めた」そうですが、運動が難しいという人でも楽しめる企画として毎年20人程が参加するのだとか。

これまで、自治会の各種役員は2期までという慣例だった同自治会。しかし、コロナ禍の改選期で異例の3期目に突入。小山さんは「2期で終わりと思っていた分、気持ちの切り替えが難しい部分もあったが、各部会長も『どうせやるなら』と頑張ってくれている。花壇整備を担当する産業部長は定植する花の苗づくりからやってるよ」と、笑顔を見せます。小野寺さんも、「高齢者や要支援者が増えている現状から、保健福祉部の設置を検討している」と、より機動力のある自治会に向けて歩みを止めません。

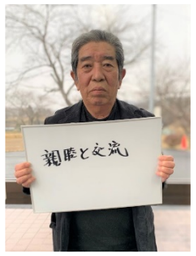
「鍵かけ運動」を行うからこそ、一人暮らし高齢者宅等には広報物の配布時に声をかけあうなど、日頃の丁寧な関係性づくりが、同自治会の大きな強みです。

Q.集落の自慢は何ですか？

自治会長

おやま　みつまさ

小山光正さん



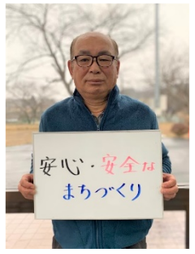
A. 親睦と交流

9代目自治会長。自治会長は一丁目と二丁目から交互に出す慣例があり、小山さんは一丁目在住。「室根南流太鼓」や「室根山野草の会」でも活躍中。

総務部副部長

おのでら　まさゆき

小野寺正幸さん



A. 安心・安全なまちづくり

区長も3期目を務める小野寺さんは、レタリングが得意。自治会で使用する横看板等は小野寺さんが手掛けたものが多数あります。

- Photo gallery -

自主的に取り組んで

「鍵かけモデル地区」のチラシは自治会で印刷・ラミネートして全戸配布。防災マップは今後全戸に周知していく予定。

山から石を運んだ成果

バレーボール大会の反省会での会話から整備した花壇は、石を持ってくるところからスタート。今では立派な憩いの場です。

いきいきサロン

女性部と保健推進委員が主体となり、65歳以上であれば誰でも気軽に参加できる居場所づくりにも取り組んでいます。

長寿を祝う会

文化部と女性部が担当。自治会館がないので、室根保健センターを使用（送迎は女性部）。当祝者の半分弱の40人程が参加。

今月のテーマ

地域運営の落とし穴⑩

博識杜のフクロウ博士

第26話

「地域の特色」とは？

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が、暮らしや景気に幅広い影響を及ぼし始めているのは周知の事実ですが、このウイルスが発生していなくても、そうなっていたという考え方もあります。

「地域」には、人が暮らし、生活を送るために必要な‘サービス’が提供されてきました。そもそもは**‘地域内で完結する暮らし’**があり、食糧はもちろん、生活用品の販売、電気(電器・電機)屋、大工さんなどなど、地域内の商店が地域内に必要なモノ・コト・ヒトを提供していました。しかし、大型店舗や全国区でチェーン展開をする店舗が参入し始め、インターネット等を介した通信販売も普及すると、地元商店の役割は縮小傾向に……。そこに人口減少・高齢化の波が訪れ、さらにコロナ禍における外出自粛……と、畳みかけるように逆境が襲いかかり、地域に根ざしていたはずの商店や事業所は、廃業に追い込まれるなど、危機的な状況になっています。

こうした事態を‘時代の流れ’と思っていて良いかというとそうではなく、地元商店などの廃業は、地域住民の生活に支障をきたすだけでなく、**‘地域の特色の損失’**に至るのです。「うちの地域には○○がある！」と、盆正月の‘御遣い物’や‘お土産’に持たせたりしていたものが、「かつては○○があったんだけどね……」という状況に。手に入るもので賄うしかない中で、‘お土産’として、‘全国的に流通しているモノ’を使うのも、なんだか切ない話ですよね(決して全国流通のモノが悪いというわけではありません)。

近年は、インターネット等の情報を通じ、‘目視できる環境’が広がっているために、「どういう姿になりたいか？(どういう地域にしていきたいか？)」と問いかけた時に、自分たちの地域には馴染まない‘都会的な発想’で物事を考える人が多いように感じられます。これでは**「地域性」**を生み出すのは難しく、地域の「個性」や「特性」は失われてしまいます。

「生活の豊かさ」は、‘インフラが整い便利な暮らしができること’ではなく、‘人のつながり’など「心の豊かさ」なのです。

地域の特色が薄くなりつつある今、地域の特色を「つくろう」と思っても難しいと思っています。**「地域の特色」は、‘その地域の成り立ち’と言っても過言ではない**からです。だから、いまいまに「特色」と言っても、歴史や積み重ねがない状態では、住民の心に響くものではなく、**‘薄っぺらいもの’**でしかないはずです。

大東町大原の‘御遣い物’として地域に根付いているお菓子の1つ、山二菓子舗の「白羊羹」。小豆ではなく「ささげ豆」を使用するため、一般的な羊羹に比べて白く、さっぱりとした味わい。残念ながら後継者は不在だとか……。

「地域」を受け継ぐ・引き継ぐために……

人口減少により大きく地域が変わろうとしている今、**‘地域の特色を失わないための取り組み’**も地域づくり活動の一環で行われています。イメージしやすいのは、「地元学」や歴史的なポイントをまとめた「地域資源マップ」などでしょう。一方で、なかなか手を出しにくいのが、**地域内の「産業」の継承**です。それらは家内制手工業であることも多いため、従業員を雇用していることが少なく、その家の誰かが継がなければ失われてしまいます。後継者がいないことが分かっていても、他人の家のことになかなか口出しはしにくいものです。

そんな中、最近では、**「継業」**という手法により、**‘その地域に無くなっては困るもの’**を維持する取り組みも始まっています。地域の個店など、家業として営まれている事業を、**家族や親族で継続できない場合に、第３者がその技術や手法を引継ぎ、絶やさないようにすること**です。

Ｍ＆Ａ(※)に似ていますが、Ｍ＆Ａは、大企業の場合であり、**「継業」は、人的つながりを重視し、生業を受け継ぐ、すなわち‘地域の特色を受け継ぐ’ようなイメージ**です。

個人の領域に関わることなので、デリケートなことではあるものの、**「地域の特色」を失う前に、地域内で話し合ってみてはいかがでしょうか？**

※英語のMergers(合併)and Acquisitions(買収)の略。複数の企業を一つの企業に統合したり、ある企業が他の企業の株式や事業を買い取ったりする事。

企業紹介

藤沢 有限会社 玉澤建設(木楽々工房)

「地元の優良木材を最大限に活用すること」「地元の大工職人を活かし、その技を継承していくこと」がモットーの有限会社玉澤建設。自然素材に徹底的にこだわった新築・リフォーム・修理修繕を手掛けています。

昭和44年、現代表の父が製材業で創業後、隣町の大工職人に声がけをし、住宅建築を開始しました。昭和63年に現社名で法人化し、２代目には現代表の兄が、平成27年からは３代目代表取締役として玉澤豊栄さんが就任、現在に至ります。住宅事業にはお客様が命名した「木楽々工房」というサブネームを使用し、平成18年からは奥州市前沢区に展示場(モデル住宅)も展開しています。

「自然との共生」エコで健康に暮らせる家づくり

家づくりを通しての温室効果ガス排出削減

「木材資源が豊富な日本ですが、住宅業界において木材自給率は３割程度。つまり、残りを外国産材に依存している状態。木材の輸送には多くの燃料を消費し、CO2を発生させています」と現状を語るのは、代表取締役の玉澤豊栄さん。刻一刻と深刻化する地球環境について、「家づくり」を通して警鐘を鳴らします。

同社が特に注目しているのが「夏の猛暑と冬の極寒」。「機械や設備を使わずに、太陽熱や風など自然エネルギーを利用した快適な暮らし」を提案するため、平成17年にエアパスエコプロジェクトに加盟。エアパス工法※1を取り入れたパッシブ・ソーラーハウスは「初期費用はそれなりにかかりますが、電力などのエネルギーを必要としないので、長い目で見れば経済的で、環境にも優しい仕組みです」と、同工法を推奨します。

また、同社が発行する「木楽々通信※2」は、今年２月の発行で１２２号を数えます。同社で新築やリフォームをされたお客様の声や、現場の作業状況のほか、おすすめ本の紹介や地域の話題、季節に合わせた情報など、紙面は読み応え十分！

展示場での配架や、直接的なお客様向けの発行ですが「口コミで広がり、多くの方に目を通していただいております」と玉澤さんは笑顔を見せます。

※1　壁内に２つの空気層を設け、空気取り入れ口の働きによって空気に一定の流れをつくることで、夏は暑い空気が床下から屋根に抜け、熱気や湿気が残らず快適に過ごすことができ、冬は温められた空気が家全体を循環し、各部屋の温度差が無くなることで結露を防ぐ。
※2　同社ホームページにも掲載あり。

家は人生最大の買い物 相互交流でより良いものを

毎年秋には前代表が始めたお客様との交流イベント「薪割りくらぶ」を開催。薪ストーブのある家づくりも推奨する中で、「個々で薪を入手するのは大変だろう」という思いから、同社が地元の木を提供し、お客様自身に薪を割ってもらうという企画です。薪の乾燥作業(約2年)や乾燥後の薪の保管も同社で行います。薪を割った後は昼食会を開催し、参加者同士や、同社と参加者との間で交流を深めます。昨年はコロナ禍を考慮して会食をなくし、人数制限をしての開催でしたが、６家族が参加したとのこと。

「地域住民の方も気軽に足を運べる『楽々ガーデン』という企画も開催しています。大きなイベントではありませんが、環境問題に関する話題提供のほか、家の手入れの悩み事や修繕修理の相談など、ざっくばらんに語り合う場となっています。住まいづくりは『建てて終わり』ではありません。日々暮らしている中で見えてくる住宅の困りごとなど、お客様の生の声を企業として聞くことができる場ともなっています」と、同交流の意義を語る玉澤さん。「今後も家族が安心して健康で暮らせる家づくりの提供ができるよう努めて参ります」と意気込みを聞かせてくださいました。

1　令和２年の「薪割りくらぶ」の様子。
2　同社では若手大工の育成にも力を注いでいる。
3　３代目代表取締役社長・玉澤豊栄(ほうえい)さん。

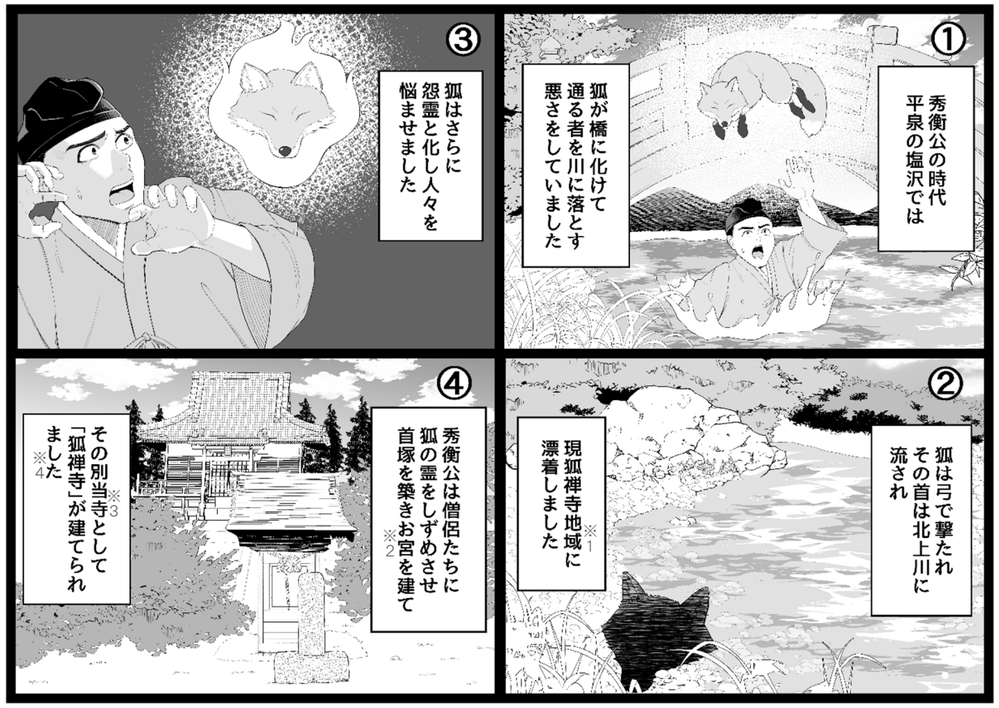
DATA
〒029-3403
一関市藤沢町砂子田字境田15-2
TEL　0191-63-3491
FAX　0191-63-4160
HP　http://www.kirara-airpass.com

センターの自由研究

ミッション55 地名の謎ファイルNo.3「狐禅寺」

当市内には「何でそんな地名に!?」と目を疑うような字面の地名もあれば、「もしかして○○だったんじゃない？」と、素人ながら「推測」してしまうような地名も多々。今回は後者として「狐に由来があるに違いない」と推測される「狐禅寺」を調査し始めましたが、調査は思わぬ方向に……。確かに「通説」としては狐が関係していましたが、実際のところは……!?まさかの通説の裏話に迫ってしまいました。

※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果です。



※1 青竹地内の**「大名婦(明舞)屋敷」**に流れ着いたと伝わる。

※2 **「稲荷大明神」**として建てたとされる。現在の**「青竹神社」**。神仏習合思想により奈良時代～江戸時代にかけて神社の境内かその近辺に建てられた神社を管理するための寺。神宮寺も同義。

※3 **「白馬山狐禅寺」**という**天台宗**の寺とされる。1439年に**曹洞宗**の**「鶏頭山光西寺」**に改宗されている(現在の場所とは異なる。下記地図参照)。現在のファミリーマート一関峯下店辺り)。

「通説」としての狐禅寺の由来

上記の漫画は旧狐禅寺村(明治22年に真滝村に編入)の「狐禅寺」の村名由来として地域に伝わる話を簡潔にまとめたものです。

地域住民に話を聞くと、「白狐が流れ着いたので、祟りを恐れて祀った。地区内に**『ビャッコヤチ』**と呼ばれていた場所があるのはその関係では?」というような話も。

ほかにも、これらの話に関係するスポットや**藤原家ゆかりの場所**が地区内には複数あるため、「狐禅寺」の由来は「地元学」等の題材として様々取り上げられてきました。

ところが、事実関係を調べ始めると、様々な謎や疑問が浮上……。そのため、文献調査や関係各所へのヒアリング、専門家のご厚意で古文書の翻刻まで決行！結論までは出なかったものの、興味深い歴史背景が様々見えてきました。

もちろん「歴史ロマン」として、突き詰めるべきではない謎もあります。これまでの通説を否定することが目的ではなく、この通説が生まれた背景に迫る「新たな歴史ロマン」として、この通説の「裏話」をお届けします！

「狐禅寺の狐伝説」裏物語

「狐禅寺」という「地名」が確認できる最も古い文献資料が元禄８年(1695年)の『旧記留(下記参照)』。いつから「狐禅寺」が地名になったのかは残念ながら分かりませんでした(「狐禅寺」になるまでは**「吾勝郷吾妻ノ荘」**)。また、今回の調査でご協力いただいた関係者のみなさま、参考文献に関しては、スペースの関係で誌面では割愛させていただき、当センターホームページに掲載します(資料の一部も公開)。

衝撃の事実① 「白馬山狐禅寺」は一代で廃寺になっていた!!

「稲荷大明神」の別当寺として秀衡公が建てたとされる「白馬山狐禅寺」。実は**秀衡公の死後は僧侶が立てられず、廃寺同然の状態になっていた**ことが判明。

わずか一代限りの寺だったこともあり「白馬山狐禅寺」という寺があったことを明確に証明できる史料はないというのが実情。

さらに、同じ天台宗の住職に話を伺うと「**『禅』は曹洞宗が極めるもの**であり、**天台宗は『止観』**を極める。**天台宗で『禅』という字を用いることには少し違和感**を感じる」という興味深い話も！

※「禅」をしないというわけではない

「怪しさ」すら漂うこの寺が地名にまで発展することが本当にあるのでしょうか!?

廃寺状態の「狐禅寺」に曹洞宗「白馬山願成寺」二世来用和尚が隠居し、その後、曹洞宗の「鶏頭山光西寺(右写真)」に改宗された。

衝撃の事実② 本来、稲荷神社は化狐とは無関係!??

伝説ではあたかも人々を困らせていた化狐をお祀りしたように聞こえますし、現在、狐禅寺地区の中心地に「稲荷神社」があるため、**「化狐を稲荷神社としてお祀りした」と誤解している人も多い**と思われますが、要注意ポイントが！

まず、現在狐禅寺地区にある「稲荷神社」はこの伝説とは無関係(後述)。そして「稲荷神」は**「ウカノミタマノオオカミ」**であり、その**「お使い」が「きつね」**ですが、動物の狐ではなく、**「びゃっこ」とも呼ばれる白い(透明)きつね。**つまり野生の狐等をお祀りするようなものではなく、稲荷神社の総本山である「伏見稲荷大社」では**「『稲荷大神』は決して『狐霊』ではない」**としているのです！

明治５年の神仏分離令により「青竹神社」と改めた現在の旧稲荷大明神(右写真)。遊水地事業により当時の場所からは移転している。

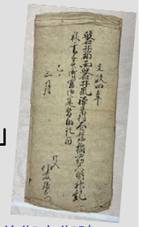
衝撃の事実③ この通説の元は一通の手紙だった!!

調査の中で出会った１つの古文書。**元禄８年**(1695年)に当時の村肝入ほか村民11人による連名で**「稲荷大明神の云い伝え」を大肝入に届け出た際の手紙**を記録したものでした。

なんとこの時、稲荷大明神は**「旧跡」**とされており、**「その云い伝えを知っている者が居たら届けでよ」**という趣旨の仰せがあったのだとか！

それを受けて差し出された手紙に書かれていた内容がまさに現在の通説。つまり、この**手紙が現在の通説の発端**となっているのです!!!

さらにこの中には**「狐禅寺はいつ村名になったかなどを知っている人は村中にいない」**という趣旨の記述も！



(右写真)一関市博物館所蔵『磐井郡西磐井狐禅寺村大名婦稲荷大明神記録書上並御宮御建替旧記留』※文政４年(1821年)に**当時の稲荷大明神の宮守・佐藤孫右衛門が当社に関する話を記録したもの**。

素人考察①

秀衡公の時代は約30年間。「白馬山狐禅寺」が別当寺としての役目を果たせていたのが同様の期間だと考えれば、短いながらも地域に定着していても不思議ではなく、**僧侶は不在になったとしても、別当が細々と守っていた可能性**も。

※「白馬山狐禅寺」が廃寺同然の姿になった背景には、奥州藤原氏の滅亡による当地域における天台宗の衰退が考えられる。

曹洞宗の「鶏頭山光西寺」に改宗されるまでに約250年ありますが、改宗されるからには何かしらの寺としての要素が残っていたと推測。

ちなみに、鎌倉時代になると、重税から逃れるため、**貴族や寺院等の有力者へ土地を寄進する動き**が。**寺社は領土を保有するだけでなく、現在の戸籍のように檀家帳を管理するなど、今よりも権勢が強かった**のだとか。

現在の**本寺地区**には**中尊寺の荘園**がありましたが、この地区も**寺名(骨寺)が地名(骨寺村→本寺村)に発展**しています。

「狐禅寺」も荘園的に当該地区を管理していたのかも……？

素人考察②

「伏見稲荷大社」によると稲荷神社の勧請として最も古いとされるものに**宮城県の竹駒神社(842年)**と**岩手県の志和稲荷神社(1057年)**をあげています。

「稲荷神」はそもそも**秦氏族(京都)の氏神**でしたが、都が平安京に遷ったことで秦氏が政治的な力を持つようになり、稲荷神も広く信仰されるように。さらに**真言密教**における**「荼枳尼天(だきにてん)」に稲荷神を習合させた**ため、**真言密教の普及とともに稲荷神も全国**に広まりました。

※「荼枳尼天」が人の心臓を食らう夜叉神のため、平安後期からその本体が狐の霊であるとされるようになった。狐の「祟り神」としての側面はそういうところから来ている？

こうした時代背景から、秀衡公の時代以前に当該地区に稲荷神信仰があった可能性もあるのです。

古代には**狐の棲家の穴(狐塚)**を祭場としていたという推測もあり、自然発生的に稲荷神のような信仰ができていた可能性も……？

※どちらにせよ、伏見稲荷大社から正式に勧請した稲荷神ではなさそうです。

素人考察③

秀衡公が建てたとされる「稲荷大明神」は、1695年時点では「古社」とされてしまうような姿に。

※同お宮のある大名婦(明舞)屋敷(＝佐藤家)が**茅葺屋根の粗末なお宮で管理**していた。

※別当寺としての「狐禅寺」が廃寺となったことと、光西寺では別当の仕事はしなかった(宗派の関係とされ、代わりに「来善院」が別当の仕事をした)ことで寂れていたと推測。

しかし、**上述の手紙の翌年、一関藩所が改築**に入り、その後、村社のような位置づけにまで格上げされます(明治初期に村社は村の中心にあるべきという考えから、別の「稲荷神社」が現在の狐禅寺市民センター横に建てられ、村社の座はそちらに……)。

※「稲荷大明神」は神仏分離令により明治５年に「青竹神社」となった。

ところが、**明治31年に火災**を起こし、神社も宮守宅も全焼……。村社「稲荷神社」ができていたこともあり、社殿が復旧したのは火災から27年後だったとか。

光西寺も火災で歴史書等が消失しており、上記「旧記留」以前の史実は誰にも分かりません……。